

---

# 我、愛する者の為

godaccel

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

我、愛する者の為

### 【著者名】

208351

### 【作者名】

godaccel

### 【あらすじ】

男はあらゆるものを使って愛する女を守ります。

(前書き)

まだ基準が分からないので指定は無しにしました（焦  
多分大丈夫！）

男がいた。

とても優しく、優しきるほどの男だった、どれだけ憎まれようが信じ続ける事が出来るような。

だがその村では除け者にされていた。

男は村一、国一、いや世界に数人といかないほどの力、能力を持っていた。

さらには頭はずば抜けて良く、一瞬であらゆる物事を考える事が出来る。

男はただ一人でその村を守り続けた、そこには笑顔があつたから、そのためには例え自分が恨まれようが守り続けた。

故にその村には笑顔は絶えなかつた、悲しみなど在るはずがなかつた。男の苦痛はその笑顔によつて笑顔になるのだから。

大国が戦争の為に男を欲した。男は逆らわずにそれに従つた。

逆らつて、その街を攻撃させるわけにはいかなかつたから。

だから男は嫌々ながらも戦いの場にでた、それが運命だとわかつたのは後になつてからだ。

女がいた。

これまた優しく、性癖を除けば完璧とまでいえるよつた女性だった。

そして村では一番の人気者だった。

だが女の性癖だけは留まる事がなく、村中の男が一度はこの女と寝た、だが女はどの男とも一度は寝なかつた。

女は運命の人を求め続け、旅人にまで手を出した。

そして女は気が付いた、待つてはいるだけではダメだと、自分から向かって行かなくてはと。

そして女は村を出て探し始めた、運命の人を。

女はとりあえず、猛者が集まる軍隊に入った、そこで女の才能は開花し、女は最高司令官にまで上り詰めた。

今回の戦いは一つ数でごり押しの大団だつた、だから猛者ばかりいるこの国からしてみれば楽に倒せる相手のはずだつた。

事実戦いは圧倒的な優勢だつた、だが流石は人数でごり押しの部隊、しばらく保たれて半年以上続いた。

だがその戦いに変化が生じた、戦いが拮抗し始めたのだ。

その立て役者の男の噂は女の耳まで届いた、それが運命の相手だとわかつたのは後になつてからだ。

戦い初めて間もないわけだが男はいつ言われるよくなっていた、  
曰く歴戦の勇者。

司令官としては完璧、練られた策は絶対性があり、生き返つてくる  
兵の数は限りなく多かった。

さらには男は最前線でその武力を振るつていた。

向かってくる猛者達を悉く薙ぎ払つていつた、犠牲を少なくする為  
には「」を犠牲にする策を用いた。

それでも男はそれで良かった、自分が犠牲になるだけで見える事のない人にまで笑顔が届くと信じていたから。

男の名はすでに敵国に轟いている、これで少しば戦いが沈静化した。

だが、男にとって最悪とも言える、だがどこか嬉しくなれる出会いをするはめになる。

男は最初それがなにか分からなかつた。

それは  
恋、一目惚れだつた。

女は最前線に出ていった、武にはそれなりに自信があつたから。

女の武は確かにこぢらの猛者達と同格かそれ以上だった、だが・・・

男の力はそれ以上だった、いや、そこにはもはや越えられない壁が在つたといつてもいい。

絶対性、もう捕虜やらにまで手を出していく女はそれに限りなく惹かれた。

そして思った、彼こそ

運命の人だと。

戦いは停戦に留まつた、予定とは違つ、二つ側にしてみれば予想外なことだ。

なにしろいちからしてみれば相手国は数だけの弱国だったのだから。

女は停戦協議と同時に男を捜す為にその国に入った。

だがどこに言つても、誰に聞いても男の情報は得られなかつた、だが女は探し続けた。

男が居た国の王はそれはそれは凹んでいた、その顔は何か悔やんで

自分の力を過信して大国に一人で挑んだそうだ、そしてそれをやり遂げた後、どこかに立ち去ったという。

男の最後はあつけないものらしかつた。

男の最後は語られるように耳に入つてきた。

そして男が死んだ事を女は知つた。

いのよつにも見えた。

私はある覚悟を決めた、真相が知りたかったから。

女はその手始めとして使えている国の王と体を重ね合い、そして約束を結ばせた。

『これから言う事を彼の国が聞けば、彼の国には手を出さない』と、王はそれを受諾した。

これは手始め、女は次に使者として彼の国、男が居た国に向かつた。

そして約束する、

『我が國は其の国に一切の手を出しません、対価として死んだ彼の男の事を全て詰して貰つ、彼の國の王は惱みそれを承諾する。

そして、最高司令官にまで上り詰めた女の勘である一つの可能性にたどり着いた。

男が滅した国は女が使っている国に攻撃を仕掛けようとしていた。

最新兵器、強化型人造人間を投入しようとした初めての戦いだった、そしてそれは絶対に成功すると言っていた。

一体一体が女の力に匹敵していた、並の猛者ならば抵抗、もしくは敗退することになつていただろう。

そのまま奪おうとしたのだ。

ここからは推測。

男はすぐに部下、上司に口封じをしてもらつたのだろう。

男の信頼度は高い、そつそつ簡単に口は割らないだろう。

男は王にその事を報告したそうだ、そして同時に一人でその任務を受けさせて貰つたのだろう。

最新兵器の事は伏せた為、王は何の不安も抱かずそれを受理した、男が負けて、ましてや死ぬ事は考えてはいなかつただろう。

男は最新兵器の悉くを難ぎ払い進んでいた、大量生産されたそれらの「骸の上を男は心を痛めながら歩いた事だろう。

そして男は感情の一切を消してその国を形作る全ての人を殺したことだろう。

戦場では誰一人として殺さなかつた男が . . . . だ。

女はそう考えて、男のことを想い

泣いた。

男が

運命の人だと確信した。

そして戦っていた時のように一生懸命男が幸せになつて欲しいと願つた自分を幸せにし続けた。

そして一度だけ、年にたつた一度悲しい一日を作つた。

男の命日、それだけは女はどれだけ頑張つても自分を幸せに出来なかつた。

だから女は必死に頑張つて男の為に作った仮の墓の前で・・・・。  
・・笑いながら

泣  
い  
た。

(後書き)

「うつこつ関係のものは結構すきだなあ～」（喜

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0835i/>

---

我、愛する者の為

2010年10月10日01時03分発行